

## 2023 年春季 参加報告書

**参加プログラム：SMEAG(IELTS)**

**参加時の学年：1 年、学部：社会、学科：メディア社会**

私が今回の留学を決意した理由は、2 つありました。1 つ目は、2024 年度の協定留学制度を利用し半年間の留学をする為に IELTS のスコアを伸ばすことです。私が所属するメディア社会学科は授業で英語を話すことが少ない為、IELTS のスコアを伸ばすためには留学の選択肢しかないと考えていました。2 つ目は、自分の知らない世界を自分の目で見てみたいと感じたからです。私は世界の果てまでイッテ Q という番組が好きで毎週見ているのですがそこで紹介される国はどこも日本とは違う魅力があり、実際に体験したいという気持ちが強くあったからです。

実際に CEBU に到着すると、日本とは違う暑さで汗が止まりませんでした。また、食文化が大きく違い辛い物や味付けの濃い物がほとんどだったので最初の 1 週間は腹痛と下痢で毎日体調が優れませんでした。幸い、発熱はなく腹痛は日本から持参した薬でなんとか乗り越えることができたので良かったです。授業では、日本語を話すことはほとんどなく先生とのコミュニケーションのハードルが高かったです。毎日知らない単語を 100 語以上は耳にし、その単語の意味を電子辞書で調べることが習慣になっていました。特に先生と 1 対 1 のスピーキングとライティングの授業が難しかったです。休日は、6 人でショッピングモールへ行き日用品やお土産を購入したり、CEBU の海へ行き写真をたくさん撮りました。特に心に残る思い出は最後の休日にボホール島ツアーに参加したことです。ボホール島は、セブ島とは違い自然が豊かで空気が美味しかったです。ツアーでは、ボホール島で人気の観光地チョコレートヒルズやターシャと呼ばれる目の大きい猿を間近で見ることができ、どちらも迫力がすごかったです。日本では絶対に見ることができない景色を見ることができたので家族や友人に共有するのが楽しみです。

これらのことから、私が 1 ヶ月間の留学を通して 1 番伸びたと思うのは、忍耐力と語学力です。忍耐力が伸びたと感じた理由は、平日は毎日朝食を食べる前から授業があり、夕ご飯を食べ終わった後も授業、テストという過酷なスケジュールをこなすことができたからです。部屋にはシャワーしかない為、授業終わりにゆっくりとお湯に浸かることもできず身体が固まりバキバキなこともありました。しかし、そんな時はルームメイトと気持ちを共有し合いお互いに高め合うことができました。語学力が伸びたと感じた理由は、最初は出来なかった先生や他国の友達との日常会話が 3 週間を終えた頃からスムーズにできるようになった点と IELTS 模擬テストのスコアが上がった点からです。私はリーディングの先生が言った言葉で心に残っている言葉があります。それは、「コミュニケーションを取るうえで大切なのは知らない単語でも話す努力をして相手に気持ちを伝えること」です。これを知るまでは、知らない単語があることは恥ずかしいことだと思い、話すことを躊躇する癖がついていました。知らない単語があることは決して恥ずかしいことではなく、自分の気持ちを話さない方が恥ずかしいことだと気づくことができました。それから、授業終わりに先生と日常会話を話すようになり知らない単語も沢山覚えられるようになりました。その後のテストでもリーディングやスピーキングのスコアが上がり自分の成長を目にすることができました。その時の感情は、とても嬉しかったです。

今後の生活では、身近に英語を感じる機会が少なくなる為、自分から進んで留学生と関わることや英語の先生と頻りに英語でコミュニケーションを取ることが必要であると考えています。留学中に感じた英語を話せない悔しさやもどかしさがなくなるようにもっと高みを目指して英語の勉強に力を注いでいきたいです。また、公式の IELTS テストに挑戦し、協定留学のスコアに届いているか自分の成長をスコアとしてみたいと考えています。2 年生では、今の生活よりもっと英語に触れ好きな教科は英語と胸を張って言えるようになりたいです。そしてセブ島留学と一緒に乗り越えた仲間たちとの絆を大切に、これからも互いに成長し合える関係でありたいです。